

知識・技能を活用し課題解決を図る 力の育成を目指す学力向上対策について

休泊小学校 学力向上コーディネーター

休泊小のH26の取り組み1（本年度も継続）

学習したことの成果発表

校長先生に向けての発表

放送委員会とのコラボ（全校放送）

1. 校長先生へ向けての発表

- 1 学期・・・暗唱（音読）
- 2 学期・・・本の紹介
- 3 学期・・・総合的な学習の発表

2. 全校放送での発表

- 1 学期・・・作文
- 2 学期・・・読書感想文
- 3 学期・・・作文

家庭学習や宿題についての統一事項

1. 各学年とも次のような家庭学習の時間を呼びかけていく（宿題も含めて）

10分×学年＋10分

2. 毎日、音読、漢字練習算数問題を宿題として課していく（量は学年で調整する）

* 3 学年以上は辞書を使った意味調べも積極的に取り入れる

3. 音読については1週間に1回ぐらいは家の人に聞いてもらえるよう学年通信等で呼びかける

授業改善

1. 授業のはじめに「めあて」おわりには「まとめ」を意識して取り入れていく

2. よりよい授業作りのための「チェックリスト25」の活用

3. 「算数授業構想シート」の活用

休泊小のH26の取り組み2（本年度も継続）

家庭への啓発事項

1. ノーテレビ・ゲームディ（タイム）の推奨
（H26全国学力・学習状況調査における児童質問紙から本校の課題である）
2. 基本的な生活習慣の確立の推奨
特に適切な睡眠時間（時間とともに就寝時刻・・・学校評価より）

自尊感情を育てる指導の工夫

1. 道徳の時間における自尊感情に関わる価値項目を重視していく
2. 特別活動の時間を活用して実践を図る

休泊小の学力面の課題

平成26年度全国学力・学習状況調査より

国語、算数共通の課題

- ・問題形式において、記述式に課題がある。(特に国語)
- ・関連づけたり理由を述べたりして答えることに課題がある。

国語の課題

○A問題

- ・話す・聞くことが低く、次に書くことが低い
- ・漢字を正しくかく(魚をやく、バスがていしゃ)
- ・文法(接続語)
- ・ことわざの意味

○B問題

- ・目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書く
- ・～～推薦している対象や理由を捉える

算数の課題

○A問題

- ・量と測定、図形領域が低い
(単位量あたり、合同な図形をかくための条件)

○B問題

- ・～～その判断の理由を記述できる。
- ・～計算し、その計算を基に判断することができる
- ・示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述できる。

平成27年度全国学力・学習状況調査休泊小の傾向

平成27年度全国学力・学習状況調査より

国語、算数共通の課題

- ・問題形式において、記述式に課題がある。(特に算数)
- ・関連づけたり理由を述べたりして答えることに課題がある。

国語の課題

○A問題

- ・話す・聞くことが低い。
- ・文法(主語)
- ・引用

○B問題

- ・目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く
- ・文章と図を関係付けて自分の考えをかく

算数の課題

○A問題

- ・図形領域がやや低い

○B問題

- ・数学的な考え方の観点が低い
- ・～～その判断の理由を記述できる。
- ・比較量と割合から、基準量を求める

児童質問紙より

良好

- ・学校に行くのは楽しいと思いますか
- ・学校のきまりを守っていますか。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- ・～～授業のはじめに(めあて、ねらい)が示されて・・・
- ・～～書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。

課題

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
- ・自分にはよいところがあると思いますか
- ・普段1日あたりどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見たり・・・

休泊小の学力面の課題 2

平成26年度末標準学力調査より

国語

- ・ 3学年とも観点においても領域においても「話す・聞く」のところが全国を下回っている。
- ・ 2年生では「話題に沿った質問」
4年生では「話し合いの内容を聞き取る」
5年生では「話し手の意見の相違点を聞き取り、自分の意見を話す」

算数

- ・ 3学年とも「数学的な考え方」が他の観点と比べて低い。
- ・ 低学年においては「技能」が全国と比べて低い

平成26年度授業チェックリスト(教師)より

平成26年度「よりよい授業づくりのためのチェックリスト」の集計結果より

課題

- ・ 学習したことを日常生活と関連付けるように工夫している。
- ・ 終末では、身に付けた力を実感できるように本時の学習を振り返らせている
- ・ . . .
- ・ 児童生徒が学びあう場を設定し、考えを深めたり広げたりしている。

平成27年度1学期 よりよい授業づくりのためのチェックリスト集計表

場面		チェック項目	A	B	C	合計点数	平均
授業準備	学級経営	児童生徒が疑問や意見を安心して発言できる雰囲気づくりに努めている。	18	9	0	72	2.67
		一人一人の顔尾をみて、名前に敬称を付けて呼んでいる。	23	4	0	77	2.85
		話し方や聞き方など、学習のルールや学び方を指導している。	20	7	0	74	2.74
		整理整頓を心掛け、学習しやすい環境が整っている	11	16	0	65	2.41
	教材研究等	単元(題材)の中の本時の位置付けを意識して授業を構想している。	13	15	0	69	2.46
		児童生徒の実態を基に、ねらいを達成するための手立てや発問を考えている。	14	13	1	69	2.46
1時間の学習の流れを意識した板書計画を立てている。		13	13	2	67	2.39	
授業中	心構え	授業の開始時刻と終了時刻を守っている。	20	8	0	76	2.71
		楽しくわかりやすい授業を目指し、熱意をもって授業を行っている。	22	6	0	78	2.79
		児童生徒に対して、受容的・共感的に接している。	14	14	0	70	2.50
	基本的な指導技術	導入では、魅力ある教材や資料の提示により、意欲を引き出す工夫をしている。	8	19	1	63	2.25
		児童生徒がめあてや学習課題をしっかりとるようになっている。	18	10	0	74	2.64
		児童生徒に予想や仮説を立てさせ、課題解決への見通しをもてるようになっている。	9	19	0	65	2.32
		児童生徒が考えたり活動したりする時間を十分に確保している。	9	19	0	65	2.32
		目的をもって机間指導し、一人一人の学習状況を把握している。	14	14	0	70	2.50
		児童生徒が学び合う場を設定し、考えを深めたり広げたりしている。	8	20	0	64	2.29
		児童生徒の多様な考えを引き出すような発問の工夫を行っている。	9	18	1	64	2.29
		意図的な指名を行い、一人一人の考えを生かすようになっている。	15	12	1	70	2.50
		ノートには、学習内容や自分の考えを分かりやすく整理するように指導している。	13	14	1	68	2.43
		終末では、身に付けた力を実感できるように本時の学習を振り返らせている。	10	18	0	66	2.36
		学習したことを日常生活と関連付けるように工夫している。	6	20	2	60	2.14
		効果的な指導の工夫	学習内容やねらいに応じて学習形態を工夫している。	11	17	0	67
ICT機器を効果的に活用し、楽しく授業に取り組んでいる。	6		16	6	56	2.00	
授業後	評価及び家庭との連携	ノートやワークシートにより、児童生徒一人一人の理解の状況を把握している。	16	12	0	72	2.57
		教師自身の授業評価を行い、次時の指導に役立っている。	7	21	0	63	2.25
校内研修との関わり	学習場面の設定	児童にどんな力をつけるかを考え、それに適する学習場面を設定したか。	10	18	0	66	2.36
	算数的活動	児童がどのように変容するかを考えて効果的な算数的活動を取り入れたか。	8	17	1	59	2.27
	授業構成	表現力や思考力を伸ばすことを念頭においた授業構成を行ってきたか。	13	15	0	69	2.46

平成26年度の推移

2.17→2.38→2.62

2.28→2.38→2.48

2.07→2.17→2.24

2.10→2.24→2.45

取組の視点

指導体制の工夫・改善

- きめ細かな指導の効果的な実施
- 責任ある指導体制の工夫
- 学力の定着をはかる補習体制の確立
- 全教職員による学習規律の徹底
- 発達段階に応じた指導法の共通理解

教育課程の改善・充実

- 考え・表現させる授業の充実
- 指導と評価の一体化を図るための取組
- 学力調査を活用した事項の実態分析と組織的な取組
- 学校評価の効果的な活用
- 小中連携の一層の推進
- 学校間連携による指導の充実

教員の指導力の向上

- 校内研修の活性化
- 管理職等の日常的な指導・助言
- 校外研修への参加と成果の共有
- 主体的に学び合える学級経営
- ミドルリーダーを活用した学び合い
- 人事評価の効果的な活用

家庭・地域との連携

○家庭学習の工夫・改善

○地域ボランティアを活用した補充学習の機会の設定

校内研修

「はばたく群馬の指導プラン」に基づく授業研究

休泊小の基本的な考え方として

学校教育目標
「こころ豊かでたくましい子」の育成

めざす児童像 ○自ら考え実行できる子 ○思いやりの心をもった子 ○規律正しくやりぬく子

既存の取組や活動

課題学習

音読

名文音読

評価テスト

各教科の言語活動

学習感想

学級経営

授業づくり

見直し・修正
スポットライト

休泊小学力向上対策

学年の実態をふまえ
強化補強を図る。学
力テストに向けての
対策も行う

指導体制の工夫・改善

学力の定着をはかる補習体制の確立 週時程の工夫、放課後・長期休業中の活用

1. 課題学習を見直し、計画的に行う

- 火曜日は算数、木曜日は国語に全校統一する
- それぞれの取り組む算数の内容や国語の内容については、できるだけ学年で足並みをそろえていく

例 4月は漢字練習、5月は視写 など
4月は計算練習、5月は作図など

2. 夏休み中のサマースクールの活用

- 1学期の復習を行うとともに、学力テスト等で正答率が低かったところの補強をはかる。

担当 学年

全教職員による学習規律の徹底 学校共通の学習ルール等の作成と活用

1. 休泊小のよい子・生徒指導確認事項を再確認し指導を行っていく。
2. 学年の実態に応じた学習ルールを決め、指導を行っていく。

特に国語の漢字の習得
算数における技能面の
強化を図るために課題の
見直しを図る

生徒指導部から出された
資料3「休泊小学校 学
習のきまり」に学校全体
で取り組んでいく

担当 生徒指導部 学年

資料 3 休泊小学校 学習のきまり

	児童の行動	指導上の留意点	1 学期	2 学期	3 学期
始業前	<ol style="list-style-type: none"> 1 道具を引き出しにしまったり、宿題や提出物を決まった場所に出したりする。 2 静かに本を読む。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 宿題や提出物は、登校後すぐに言われなくても出せるようにする。 2 学年に応じた本を選び、静かな環境の中で落ち着いて読めるようにする。 			
授業前	<ol style="list-style-type: none"> 3 授業開始までにノートに下敷きを入れて、日付を書いて静かに待つ。 	<ol style="list-style-type: none"> 3 チャイムと同時に始められるようにする。 			
課題学習や読書	<ol style="list-style-type: none"> 4 集中して学習に取り組む 	<ol style="list-style-type: none"> 4 落ち着いた環境の中で 10 分間集中して取り組めるような課題を工夫して与える。 			
授業中	<ol style="list-style-type: none"> 5 授業のあいさつをする。 6 腰骨をたてて、正しい姿勢で学習する。 7 指名されたら、「はいっ！」と返事する。 8 はっきりした、ていねいな言葉づかいで話す。 9 話をしている人を見て最後まで聞く 10 机の上を整理し、書きやすい位置にノートを置く。 11 ノートには、ポイントやメモも書く。 12 授業の終わりのあいさつをする。 	<ol style="list-style-type: none"> 5 全員が張りのある声で挨拶をすることができるように指導する。 6 繰り返し指導し、徹底する。 7 不十分な場合は、その場で指導する。 8 全員に聞こえる声で分かりやすく話させる。 9 相手の目を見て聞くようにさせる。 10 ノートや本は、まっすぐに置かせる。余分なものはしまわせる。 11 工夫している子のノートを紹介し、賞賛する。 12 チャイムで授業が終わるようにする。 			

教育課程の改善・充実

考え・表現させる授業の充実

「習得」→「定着」→「活用」の
サイクルを確立した授業

1. 校内研修を活用し、授業
作りの工夫を行う。

2. 授業で学習したことにつ
いて、宿題での補強や家庭学
習での取り組み方の示唆を与
える

担当 校内研修、学年

指導と評価の一体化を図 るための取組

「活用する力」をみとる評価問
題の活用

1. 評価を行うときに、今ま
でのテスト形式に加え、記述式形
式の評価を行っていく。

例 学習感想、作問方式、
レポート作成など

担当 学年 教科部会

学力調査を活用した自校の 実態分析と組織的な取組

「全国学力・学習状況調査」

「NRT」「CRT」等の結果分析

1. 研修部などから出された分
析結果を活用し、授業作りを行
う

担当 学力向上、学年

学習したことについての発表の場を設けていく

- ・放送委員会とのコラボ 音読発表、作文発表
- ・管理職の前での発表
- ・校長室前のギャラリー
- ・廊下や教室の掲示物の工夫 など

学習したことの発表の場（全校集会）



大学
心焉に
在らざれば
視れども
見えず
聴けども
聞こえず
食らえども
其の味を知らず



教室はまちがう
ところだ

教室はまちがう
ところだ
みんなどしどし
手を上げて
まちがった意見を
言おうじゃないか

まちがうことをおそ
れちゃいけない

そんな教室作ろうや

学習したことの発表の場（校長室）



平成27年度 2学期 校長先生への本の紹介

予定表

月 日	曜日	クラス	クラス
10月1日	木	6の1	6の2
10月9日	金	6の3	5の1
10月16日	金	5の2	5の3
10月29日	木	4の1	4の2
10月30日	金	4の3	4の4
11月5日	木	3の1	3の2
11月20日	金	3の3	3の4
11月26日	木	2の1	2の2
12月10日	木	2の3	2の4
12月11日	金	1の1	1の2
12月18日	金	1の3	1の4
12月18日	金	1の5	

場所：校長室 時間：20分休み（要相談）

内容：児童が読んだ本でとてもおもしろいので校長先生に紹介したい本について

紹介する児童：学級の代表1人または2人（要相談）

紹介内容：本の題名、著者名、その本の中で一番気に入ったところ、その本を読んだ感想

児童集会での発表（委員会紹介） 既存の取組の見直し

集会委員会からお願いが2つあります。

・・・

2つめは後期はあいさつ運動をパワーアップしてやりたいと思いますので元気のよいあいさつをお願いします。

体育委員会からお願いがあります。

・・・

短縄、長縄では体育委員会がお手本を見せませんのでお手本を参考にして、短縄長縄の練習に取り組んで下さい。



どの委員会の委員長も、原稿をみないで200字～400字くらいの内容を朗々とした声で全校に呼びかけます。

教員の指導力の向上

校内研修の活性化

外部講師の招聘、学年
部会、教科部会の活用

1. 内部講師による学習会
例 国語 英語 ICTなど

主体的に学び合える学級経営

学級活動の充実等による児童生徒の
人間関係作り

1. 学年・学級経営案に明記

1. H27は問題解決的な授業の過程における「集団解決（交流）」場面に目を向けてみたい

2. 問題解決的な学習過程において適用問題への取り組みを行うための時間配分の工夫

学級経営の中の位置づけ

学級経営案への記述

学力向上対策努力点として次のことを行っていく。

1. 学習習慣の確立

- ・正しい姿勢や鉛筆の持ち方、話し方・聞き方のルールを示し、定着するまで 根気強く指導を続ける。
- ・チャイム着席や学習用具の準備など、学習に臨む姿勢を徹底させる。

2. 基礎的・基本的事項の定着

- ・単元ごと・一時間ごとのねらいを明確にし、児童にめあて示してから学習に 取り組ませる。
- ・「わかった。」「できた。」という成就感を味わえるように、一人一人の児童 が見通しをもって取り組める体験的な学習や、問題解決的な活動を設定する。
- ・どの教科においても、言語活動を意識的に取り入れ、自分の考えをわかりやすく説明するためのスキルを育てる。

1. 学力向上対策努力点として次のことを行っていく。

- ・チャイム着席、学習準備、提出物に関してはルールを徹底させ、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組めるようにする。
- ・授業ごとのねらいを明確にし、授業の中で児童が活躍し、充実感を感じられるようにする。児童の良さや個性を引き出し、生徒指導の充実にもつなげる。
- ・家庭学習の習慣を身に付け、計画的に漢字、計算など自主学習にとり組めるようにする。また、保護者を啓発することで宿題等の内容（漢字豆テスト、字形に留意した漢字ノートの文字、計算など）にも関心を高めていく。
- ・年間を通してスピーチを行い、積極的に身近な話題から内容を選び、大きな声で聞き手に分かりやすく表現できる力をつけさせる。

授業構成の標準化（模擬授業を通して）



学校全体で共通した
板書用掲示物

めあて

まとめ

練習

5年「三角形と四角形の面積」模擬授業風景

学力向上対策の検証について

A問題に対する検証として

・夏休み、冬休み明けの漢字チャレンジ、算数チャレンジの結果を検証の手立てとしていく

平均点の他に、各個人に目を向け、前回より点数が向上した児童がどれくらいいるかなどで、取り組んできたことの有効性を確認していく。

B問題に対する検証として

・児童がかいた、学習感想、レポート、作問、作文などの内容を確認し、どの程度の変容がみられたかでき取り組んできたことの有効性を確認していく

*記述式の評価については、児童に記述させる前にどんなことを書いてほしいかを示してからの課題提示が必要になってくるのではないかと

本年度は3学期に全学年標準学力調査を行う

(2, 4, 5年は市費、1, 3, 6年は保護者負担)

1年間のまとめとして、全学年とも全国を上回れるような取り組みを目指しましょう。